

# 茅野市図書館

## リスの森通信

2022年3月8日発行  
茅野市図書館 第22号

寒い冬から次第に陽が伸びて、草花が芽生え始めるあたたかな季節がもうすぐそこまできています。春を感じるあたたかなぬくもりを感じる本との出会いを求めて、春風とともにぜひ図書館まで足を運んでみてはいかがでしょうか。

まずは、春を感じる絵本を2冊紹介します。



山、海、川、田んぼ、公園…。いろんな場所に目を向けて、そっと耳を澄ましてみると、さまざまな発見に出会えます。ページをめくるたびに、春の気配を感じる絵本です。

新しい本が入りました!

## ちくまQブックス シリーズ

10代のノンフィクション読書を

応援します!!

身近な「なぜ」(Question)が  
スタート地点。いろいろな「知りたい」に答えます!

ふだん本を読まないから…と、なかなか本に手がでない人も思わず、おもしろそうなテーマに手が伸びてしまう興味をそそる本がいっぱいです。最近の学校のトレンドを意識した旬の話題のテーマの本もおもしろいし、昔から普遍的な疑問、例えば「なぜ勉強をしなくてはいけないのか?」も気になるところです。



さあ、  
あなたの  
疑問?を  
探して  
みよう!



## 職員おすすめの本を紹介します



なぜか、わくわくする春♪♪ 新しい季節に、いつも読んでいる本とは違う作家やジャンルの本を読んでもみると、ステキな本との出会いがうまれますよ。本との春の出会いを求めて図書館のティーンコーナーにぜひ来館してくださいね

### 『文豪中学生』

小手鞠 るい 著 あすなろ書房

「書くこと」が大好きな春希は、小説家を夢見る中学生。文芸部の部長として周囲の信頼も厚く、中学生最後の年を楽しく過ごしていた。ところが、詩の投稿サイトで月間ベスト1に選ばれるも、ある詩が思わぬ方向に捉えられて、誹謗中傷が始まりすべての歯車が狂いだしてしまう。

春希のさまざまな試練にくじけそうになりながらも、自分の中からあふれ出る、たくさんの言葉を紡ぐことに、まっすぐな心で突き進んでゆく姿は純粋で力強く応援したくなります。

ことばの力や繊細さ、文章を書く意味、思春期の傷つきやすい心も映されている物語です。

(伊藤)



### 『あしたの あたしは あたらしい あたし』

石津ちひろ 著 大橋歩 絵 理論社

「言葉の達人」と言われる石津ちひろさんの詩集。軽やかな、たくさんの言葉たちが、さらさらと心に入ってきます。アナグラムや言葉遊びも取入れられているので、声に出して読んでみるのもおすすめ！

春からあたらしい生活に向かうみんなの気持ちをきっと、暖めてくれるのでは…と思います。

閉塞感漂う今日この頃。『はるらんまん はるのひに はひふへほっほと わらったら〜』(はるらんまん)なんて読んでうちに、なんだか自由になっていくような気がしてきます。

(川口)



### 『もしものせかい』

ヨシタケシンスケ著

株式会社赤ちゃんとママ社

ある日ボクは「もしものせかい」に行くことになりました。「もしものせかい」には、ボクの未来になるはずだったものがみんなあります。

もしもあの学校に通えていたら、もしもあの企業に就職ができていたら、もしもあの時もっと勇気をだしていたら…誰もが「もしものせかい」をもっています。

あなたは「もしものせかい」にいてみたいですか？

「もしものせかい」が大きくなりすぎてしまった人にぜひ読んでもらいたい考えさせられる一冊です。

(小平)

